『智頭町百人委員会アンケート調査結果報告書』（概要版）

客員研究員　早　尻　正　宏

要　旨

智頭町百人委員会から町内の地域課題把握に関する実態調査の支援要請を受けた財団法人とっとり地域連携・総合研究センター（TORC）は、2009年10月、『智頭町百人委員会アンケート調査結果報告書』（以下、『報告書』）を同委員会に提出した。本稿は『報告書』の概要版であり、本誌の様式にしたがって作成したものである。『報告書』は分析評価と集計結果、調査票で構成されているが、本稿には、主要部分である分析評価の全文と集計結果の一部を掲載した。集計結果は、単純集計とクロス集計（年代別、性別、配偶者の有無別、居住集落別）のほか、回答選択理由や意見・提案など回答者のコメントをまとめた自由記入欄で構成されており、そのうち、本稿には自由記入欄（個人属性は年代別と性別のみを記載し、配偶者の有無別と居住集落別は省略した）の結果を掲載した。『報告書』作成の経緯と調査の概要は次の通りである。2008年９月、住民主体で「地域再生」を進めていくことを目的に、智頭町長の私的諮問機関として設置された智頭町百人委員会は、2009年８月、地域課題を具体的に探るため、住民基本台帳（2009年８月１日）から無作為抽出した20歳以上の町民1,000人を対象に、郵送による「智頭町百人委員会アンケート調査」を実施した。TORCは、調査実施に当たって智頭町百人委員会から支援を要請され、筆者が、同委員会が設置したアンケート実行委員会に加わり、調査手法の検討や調査票の作成支援、調査結果の分析、そして『報告書』の作成を担当した。同調査に参加したのは、委員会を構成する６部会のうち、生活環境、福祉、農林業、教育・文化の４部会である。調査方法は自記式アンケートによる郵送方式、調査対象者は20歳以上（2009年８月１日時点）の智頭町民1,000人である。調査票は2009年８月13日に発送し、回答期限（投かん期限）は８月31日までとした。調査票を実際に郵送できたのは987人（送付先に届かずに返送された人数が13人）、有効回答数は397人、発送数に対する回答率は39.7%だった。なお、同調査の詳細な実施過程に関しては、筆者が本誌前号に記した「政策課題別市民会議の社会調査活動に関する地域支援―智頭町百人委員会の住民アンケート調査―」を参照していただきたい。本稿が、智頭町関係者および地域づくりに関心を寄せる読者の「地域再生」学習の一助となればと考えている。

１．はじめに

１．１　調査概要（表１）

「智頭町百人委員会アンケート調査」（以下、「住民アンケート」）は、智頭町百人委員会が2009年８月、智頭町民1,000人を対象に実施した。「住民アンケート」に参加したのは生活環境部会、福祉部会、農林業部会、教育・文化部会の４部会である。「住民アンケート」の実施方法や調査内容については、各部会選出の委員で構成されたアンケート実行委員会が検討した。調査設計や調査内容の調整等に関するアドバイス、分析評価と集計結果の整理は、財団法人とっとり地域連携・総合研究センターが担当した。

調査方法は自記式アンケートによる郵送方式、調査対象者は20歳以上（2009年８月１日時点）の智頭町民1,000人である。2009年８月13日に調査票を発送し、回答期限（投かん期限）は８月31日までとした。回収率は42.8%（428人）、有効回答率は39.7%（397人）である。

以下の分析評価では、比率表示については小数第２位を四捨五入した数値を使用した。なお、選択肢に「そのほか」を設けた質問ではその内容の記入欄を設けたが、本稿では、煩雑を避けるため省略した

ので、注意していただきたい。

表1　アンケート調査の概要

調査対象	＜母集団＞満20歳以上の智頭町民 （2009年８月１日時点） ＜標本数＞1,000人 ＜抽出方法＞住民基本台帳から無作為抽出
調査方法	郵送調査
調査期間	＜発送日＞2009年８月13日 ＜投函期限日＞2009年８月31日
回収結果	＜回収数（率）＞428人（42.8%*） ＜有効回収数（率）＞397人（39.7%*） ＜調査不能数＞13人（住所不明）

*小数第２位を四捨五入した。

１．２　回答者の属性（表２、３）

有効回答者数は397人、回答者の構成比を年齢別にみると、「20歳代」が6.5%（26人）、「30歳代」が9.1%（36人）、「40歳代」が14.1%（56人）、「50歳代」が20.9%（83人）、「60歳代」が21.7%（86人）、「70歳代」が16.9%（67人）、「80歳代以上」が10.8%（43人）だった。なお、「80歳代以上」には90歳代が４人含まれていた。

性別でみると、「女性」が55.4%（220人）、「男性」が44.6%（177人）だった。また、年齢と性別をクロス集計すると、「20歳代」と「50歳代」以外は男性の方が多かった。

表２　回答者の属性（N=397）

項　目	内　訳	人　数	構成比
年　齢	20歳代	26人	6.5%
	30歳代	36人	9.1%
	40歳代	56人	14.1%
	50歳代	83人	20.9%
	60歳代	86人	21.7%
	70歳代	67人	16.9%
	80歳代以上	43人	10.8%
性　別	男性	177人	44.6%
	女性	220人	55.4%
配偶者の有無	あり	285人	71.8%
	なし	112人	28.2%
集　落	智頭・東地区	92人	23.2%
	智頭・西地区	57人	14.4%
	山形地区	58人	14.6%
	那岐地区	57人	14.4%
	土師地区	61人	15.4%
	富沢地区	42人	10.6%
	山郷地区	30人	7.6%

配偶者の有無別では、「あり」が71.8%（285人）、「なし」が28.2%（112人）を占めた。

集落別では多い順に「智頭・東地区」（23.2%、92人）、「土師地区」（15.4%、61人）、「山形地区」（14.6%、58人）、「智頭・西地区」と「那岐地区」（14.4%、57人）、「富沢地区」（10.6%、42人）、「山郷地区」（7.6%、30人）だった。

表３　年代別および男女別にみた回答者数（N=397）

年　齢	性別		計
	男　性	女　性	
20　歳　代	11人	15人	26人
30　歳　代	21人	15人	36人
40　歳　代	30人	26人	56人
50　歳　代	34人	49人	83人
60　歳　代	52人	34人	86人
70　歳　代	44人	23人	67人
80歳代以上	28人	15人	43人
計	220人	177人	397人

２．生活環境部会

２．１　生活環境（ごみ問題、リサイクル）

2.1.1 生ごみの処理はどの方法で行っていますか。（○は１つ）（図１）

生ごみの処理方法で最も多かったのは「燃えるごみ」（51.1%）であり、「畑」（20.4%）「くるくるプラン」（10.6%）と続いた。地区ごとに回答傾向は異なり、山形地区と山郷地区では「くるくるプラン」（山形43.1%、山郷40.0%）、富沢地区では「畑」（35.7%）が最も多かった。

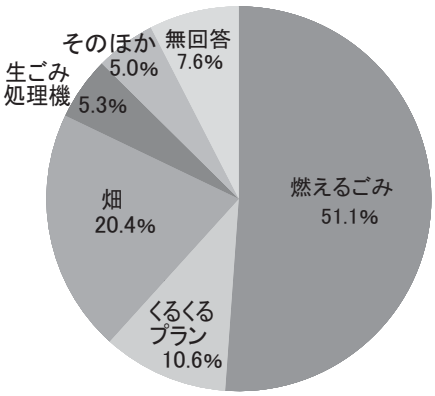

図１　生ごみの処理方法（N=397）

2.1.2 資源ごみの処理はどの方法で行っていますか。（○は１つ）（図２）

資源ごみの処理方法は、「資源回収」（41.8%）と「ごみステーション」（40.8%）に大きく分かれた。「業者による回収」は11.6%だった。

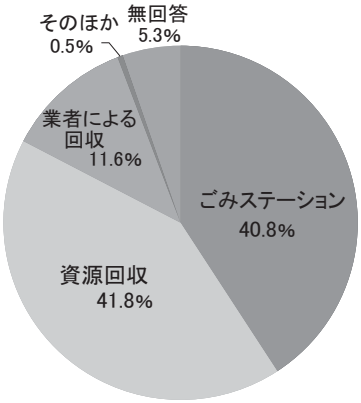

図2　資源ごみの処理方法（N=397）

2.1.3 ごみの減量やリサイクルについて、どのような情報を知りたいですか。（○は２つ、１つだけでもかまいません）（表４）

ごみの減量やリサイクルについて知りたい情報のトップは、「家庭でできるごみの減量方法」（128人）で、「リサイクルに対する町の補助・支援制度」（106人）、「ごみの分別（種類・収集日・古紙などの出し方）」（76人）、「地域の集団回収などの資源物回収情報」（66人）と続いた。

表４　ごみの減量やリサイクルについて入手したい情報（複数回答）

	回答数(人)	構成比
家庭でできるごみの減量方法	128	22.3%
リサイクルに対する町の補助・支援制度	106	18.5%
ごみの分別（種類・収集日・古紙などの出し方）	76	13.3%
ごみ量や処理費用などの実績	53	9.2%
スーパーなど民間事業者による資源の店頭回収情報	46	8.0%
地域の集団回収などの資源物回収情報	66	11.5%
ごみ・資源物が処理・リサイクルされる過程	45	7.9%
とくに知りたいとは思わない	49	8.6%
そのほか	4	0.7%
計	573	100.0%

2.1.4 ごみの減量やリサイクルの促進のために、あれば良いと思う取り組みを教えてください。（○は２つ、１つだけでもかまいません）（表５）

ごみの減量やリサイクルを促進するうえで必要な取り組みとして、「各地区のリサイクルボックスの設置」（189人）が最も多く挙げられた。「地域通貨を導入し、楽しみのある制度づくり（町独自のエコポイントなど）」（138人）、「不用品交換事業（登録制で、交渉は個人と個人が行い、管理は役場が担う）」（67人）、「フリーマーケット」（65人）の関心も高かった。なお、エコポイントとは、町民バスの利用やエコ商品の購入、マイ箸・マイバックを持参した際に付与されるポイントによって各種の特典を利用できる制度である。

表５　ごみの減量やリサイクルを促進するうえで必要な取り組み（複数回答）

	回答数(人)	構成比
フリーマーケット	65	12.7%
不用品交換事業（登録制で、交渉は個人と個人が行い、管理は役場が担う）	67	13.1%
ごみ減量、リサイクル講座	38	7.5%
地域通貨を導入し、楽しみのある制度づくり（町独自のエコポイントなど）	138	27.1%
各地区のリサイクルボックスの設置	189	37.1%
そのほか	13	2.5%
計	510	100.0%

2.1.5 あなたが行っている環境に配慮した取り組みについて教えてください。（あてはまるものすべてに○）（表６）

実際に行っている環境に配慮した取り組みのトップは、「詰め替え商品を積極的に利用する」（289人）だが、「マイバッグを持参する」（270人）も多かった。以下、「トレーや紙パックは分別してスーパーの回収ボックスに出す」（164人）、「故障してもなるべく修理して使用する」（144人）と続いた。

表６　現在行っている環境に配慮した取り組み（複数回答）

	回答数(人)	構成比
使い捨て商品は購入しない	56	4.3%
詰め替え商品を積極的に利用する	289	22.4%
過剰包装やレジ袋をことわる	166	12.8%
マイバックを持参する	270	20.9%
料理をする時にできるだけごみを出さないようにする	79	6.1%
生ごみ処理機などを利用してごみを減量、堆肥化する	72	5.6%
牛乳や酒のびんなどリターナブル製品を購入する	40	3.1%
トレーや紙パックは分別してスーパーの回収ボックスに出す	164	12.7%
故障してもなるべく修理して使用する	144	11.1%
とくになし	13	1.0%
計	1,293	100.0%

2.1.6 生活環境全般について、ご意見やご提案などあれば記入してください。

分析は省略した。詳細は添付の「集計結果」を参照してほしい。

2．2 公共交通（すぎっ子バス、汽車、交通全般）

2.2.1 すぎっ子バスの利用について

2.2.1.1　あなたはすぎっ子バスを利用することがありますか。（○は１つ）（図３）

すぎっ子バスの利用については、「利用することがある」のは26.4％で、「利用しない」は71.5％だった。

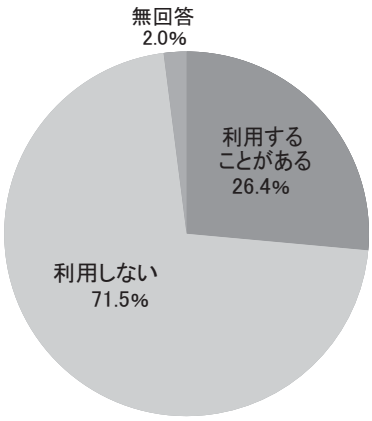

図３　すぎっ子バスの利用の有無（N=397）

2.2.1.2 どれくらいの割合で利用していますか。（○は１つ）（図４）

「利用することがある」と回答した105人に利用頻度を聞いたところ、「年に数回」（46.7％）が最多で、「月に数回」（31.4％）と続いた。「週に２～３回」（7.6％）や「ほぼ毎日」（1.9％）といった日常的な利用者は１割に満たなかった。

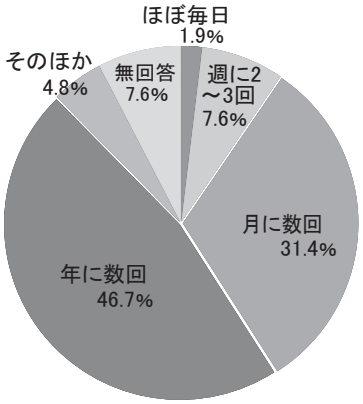

図４　すぎっ子バスの利用頻度（N=105）

2.2.1.3　料金についてどう思いますか。（○は１つ）（図５）

運賃については、バス利用者の3分の2が「妥当である」（63.8％）、3分の1が「安い」（34.3％）と回答した。「高い」は1.9％だった。

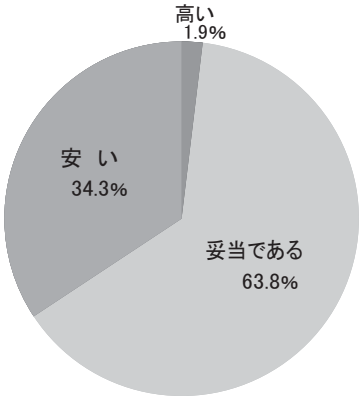

図５　すぎっ子バスの運賃の負担感（N=105）

2.2.1.4　あなたの利用目的を教えてください。（あてはまるものすべてに○）（図６）

バス利用者の利用目的で最も多かった回答は「通院」（46人）で、「買い物」（33人）、「飲酒時の代替交通」（22人）、「冬期間の代替交通」（20人）と続いた。

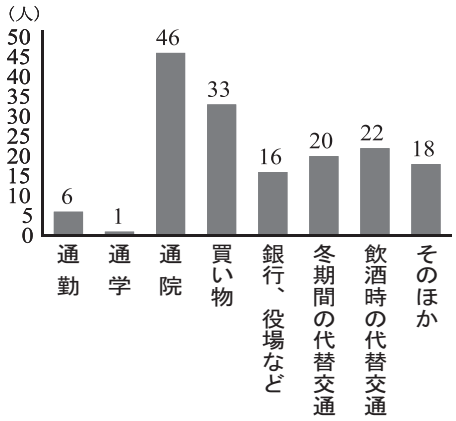

図６　すぎっ子バスの利用目的（N=105）

2.2.1.5　利用しない理由を教えてください。（○は１つ）（表７）

すぎっ子バスの非利用者に対して、利用しない理由を聞いたところ、およそ半数が「ほかの交通手段の方が早く移動できる」（52.5％）を挙げた。以下、「そのほか」（14.1％）、「徒歩、自転車で可能なので利用する必要がない」（13.7％）、「自宅付近、または目的地に路線がない」（13.4％）と続いた。

表７　すぎっ子バスを利用しない理由（N=284）

	回答数(人)	構成比
ほかの交通手段の方が早く移動できる	149	52.5%
ほかの交通手段の方が経済的である	4	1.4%
自宅付近、または目的地に路線がない	38	13.4%
徒歩、自転車で可能なので利用する必要がない	39	13.7%
そのほか	40	14.1%
無回答	14	4.9%
計	284	100.0%

2.2.1.6　すぎっ子バスのダイヤについてどう思いますか。（○は１つ）（図７）

すぎっ子バスのダイヤが便利かどうか、非利用者を含めて全員に聞いたところ、およそ半分を占めた「どちらともいえない」を除くと、「便利である」（20.7％）と「不便である」（20.4％）がほぼ同じ回答数となった。

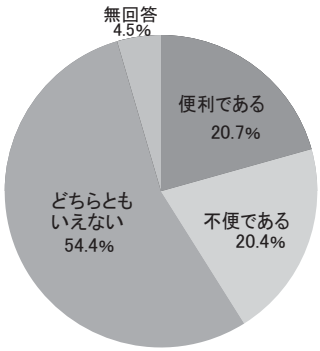

図７　すぎっ子バスのダイヤは便利かどうか（N=397）

2.2.2　汽車の利用について

2.2.2.1　あなたは汽車を利用することがありますか。（○は１つ）（図８）

汽車を「利用することがある」は41.8％であり、「利用しない」49.4％を下回った。

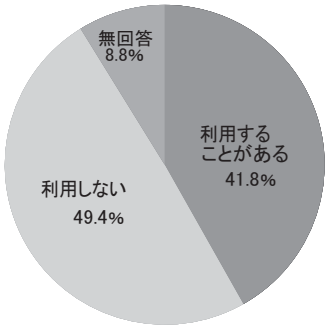

図８　汽車利用の有無（N=397）

2.2.2.2　どれくらいの割合で利用していますか。（○は１つ）（図９）

汽車の利用者166人の利用頻度をみると、「年に数回」が77.7％と大部分を占めた。「週に２～３回」（1.2％）や「ほぼ毎日」（1.8％）といった日常的な利用者は少数にとどまった。

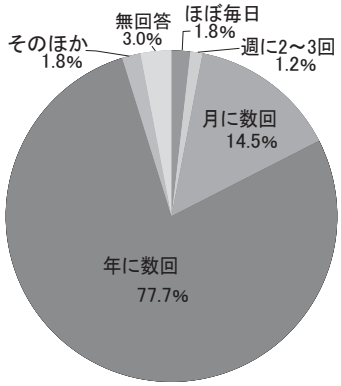

図９　汽車の利用頻度（N=166）

2.2.2.3　利用目的を教えてください。（あてはまるものすべてに○）（図10）

汽車の利用目的は、すぎっ子バスとは異なり、「飲酒時の代替交通」が67人と最も多く、「買い物」（37人）、「通院」（34人）と続いた。「住民アンケート」では具体的な行き先を聞いていないので推測するほかないが、鳥取市街に出かけるうえで、少なくない人が汽車を利用しているものと考えられた。

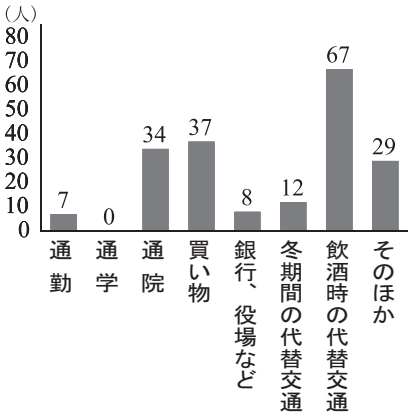

図10　汽車の利用目的（N=166）

2.2.2.4　利用しない理由を教えてください。（○は１つ）（表８）

汽車の非利用者に利用しない理由を聞いたところ、約６割が「ほかの交通手段の方が早く移動できる」（61.2%）を挙げた。以下、「そのほか」（14.3%）、「自宅付近、または目的地に路線がない」（11.7%）と続いた。

表８　汽車を利用しない理由（N=196）

	回答数(人)	構成比
ほかの交通手段の方が早く移動できる	120	61.2%
ほかの交通手段の方が経済的である	8	4.1%
自宅付近、または目的地に路線がない	23	11.7%
徒歩、自転車で可能なので利用する必要がない	3	1.5%
そのほか	28	14.3%
無回答	14	7.1%
計	196	100.0%

2.2.2.5　汽車のダイヤについてどう思いますか。（○は１つ）（図11）

汽車のダイヤが便利かどうか、非利用者を含めて全員に聞いた。およそ半分を占めた「どちらともいえない」を除くと、「不便である」（29.0%）が約３割を占め、「便利である」（12.3%）を大幅に上回った。

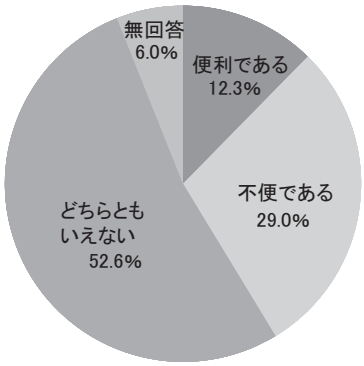

図11　汽車のダイヤは便利かどうか（N=397）

2.2.3　交通全般について

2.2.3.1　デマンドバスがあれば利用したいですか。（○は１つ）（図12）

利用者の電話などの呼び出しに応じて、一定地域内を不定期に運行する小型バスをデマンドバスと呼ぶが、その利用希望はどうだろうか。回答結果をみると、「どちらともいえない」（61.0%）が最も多かった。「利用したい」（16.4%）は「利用したくない」（13.9%）を上回ったが、「どちらともいえない」という回答結果の多さを踏まえると、デマンドバスに対する関心はあまり高くないものと考えられた。

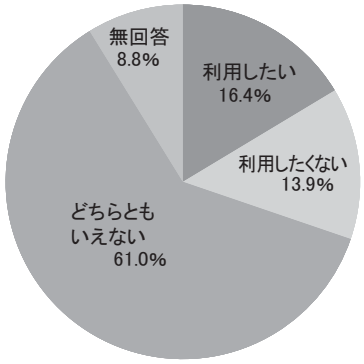

図12　デマンドバスの利用希望（N=397）

2.2.3.2　最寄りの駅に駐車場があれば、パークアンドライド方式で汽車、バスなどを利用したいですか。（○は１つ）（図13）

パークアンドライド方式の利用希望はどの程度あ

るのだろうか。パークアンドライド方式とは最寄りの駅や停留所に自家用車を駐車し、そこから鉄道やバスに乗り継ぐ移動方式で、交通渋滞や環境汚染の対策の一環として注目されている。回答結果をみると、約半数を占める「どちらともいえない」（52.6%）を除くと、「利用したい」（25.7%）が「利用したくない」（12.1%）を上回った。

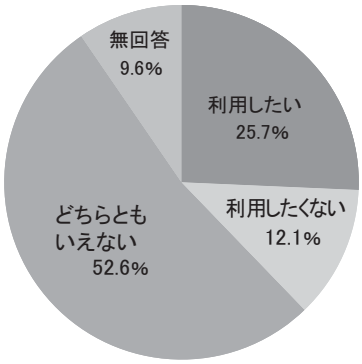

図13　パークアンドライド方式の利用希望（N=397）

2.2.3.3　智頭駅前の路上停車による混雑についてどう思いますか。（○は１つ）（図14）

智頭駅前の路上駐車による混雑をどう考えるか聞いたところ、「危険」（48.4%）が最も多く、「やむを得ない」（36.3%）と続いた。

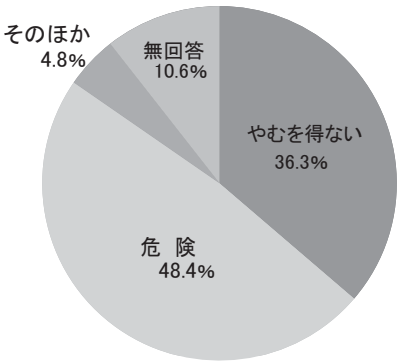

図14　智頭駅前の路上駐車についてどう思うか（N=397）

2.2.3.4　すぎっ子バスや汽車の利用を増やすために、ご意見やご提案などあれば記入してください。

分析は省略した。詳細は添付の「集計結果」を参照してほしい。

3．福祉部会

3．1　認知症（痴呆）を理解していますか（アルツハイマー、ピック病、若年性認知症など）。（○は１つ）（図15）

認知症（アルツハイマー、ピック病、若年性認知症など）を理解しているかどうか聞いたところ、「はい」と答えた人は全体の82.1%と、「いいえ」（14.4%）を大幅に上回った。

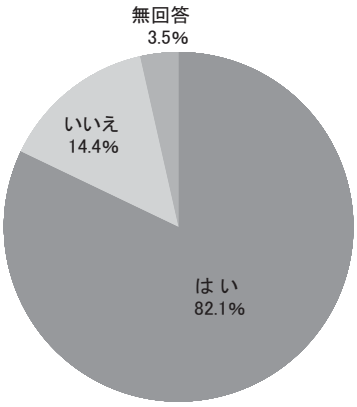

図15　認知症の理解度（N=397）

3．2　家族のなかに認知症の方がいますか。（○は１つ）（図16）

家族に認知症の方がいると回答したのは全体の9.8%（39人）だった。

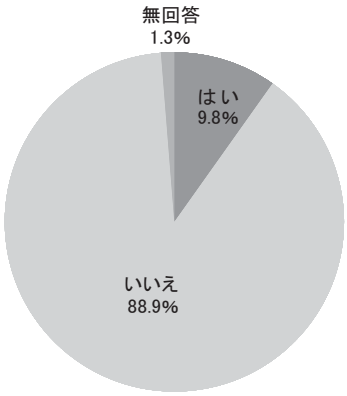

図16　家族に認知症の方がいるかどうか（N=397）

3．3　認知症にかかわって、生活上、困ったことはありますか。「ある」場合はその理由を記入してください。（○は１つ）（図17）

認知症にかかわる生活上の困難について聞いたところ、「ある」と回答した人が全体の13.9%だった。

家族の中に認知症の方がいない場合でも、生活上困難が生じているケースがあったが、その詳細については、添付の「集計結果」を参照してほしい。

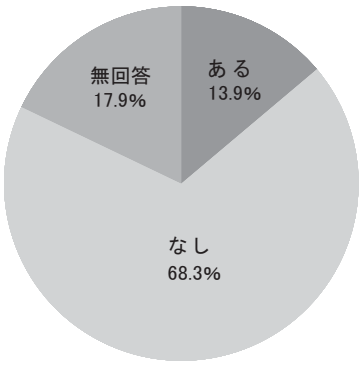

図17　認知症にかかわる生活上の困難の有無（N=397）

3．4 認知症について研修などを通じて学習したいと思いますか。（○は１つ）（図18）

認知症について研修などを通じて学びたいかどうか聞いたところ、学びたいと考えている人が全体の39.8％を占めるなど、認知症について理解を深めたいと考える人が少なくないことが明らかとなった。

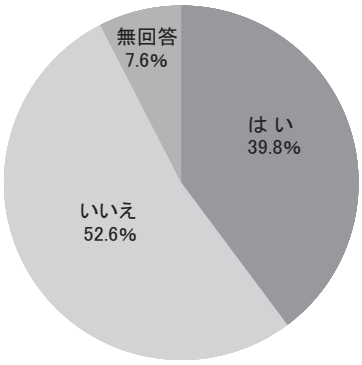

図18　認知症の学習ニーズ（N=397）

3．5 研修を受講するに当たって、希望の時間帯を教えてください。（○は１つ）（表9、図19）

認知症に関する研修の受講希望者158人に受講希望の時間帯を聞いたところ、全体では、「平日・夜間（18時以降）」が19.6％と最も多く、「平日・午前（９～12時の間）」（18.4％）、「平日・午後（13～17時の間）」（13.3％）、「土日・夜間（18時以降）」（12.7％）と続いた。この結果には年代別に差がみられ、全体で最も多かった「平日・夜間（18時以降）」の希望者は20～50歳代が中心で（20歳代57.1％、30歳代38.5％、40歳代37.5％、50歳代31.4％）、次に多かった「平日・午前（９～12時の間）」の希望者は60歳代以上が中心を占めていた（60歳代29.7％、70歳代27.6％、80歳代以上46.2％）。

表９　認知症に関する研修の受講希望時間帯（N=158）

	回答数(人)	構成比
平日・午前（９～12時の間）	29	18.4%
平日・午後（13～17時の間）	21	13.3%
平日・夜間（18時以降）	31	19.6%
平日・特に希望する時間帯はない	8	5.1%
土日・午前（９～12時の間）	10	6.3%
土日・午後（13～17時の間）	13	8.2%
土日・夜間（18時以降）	20	12.7%
土日・特に希望する時間帯はない	8	5.1%
平日休日のどちらでもよく、特に希望する時間帯もない	12	7.6%
無回答	6	3.8%
計	158	100.0%

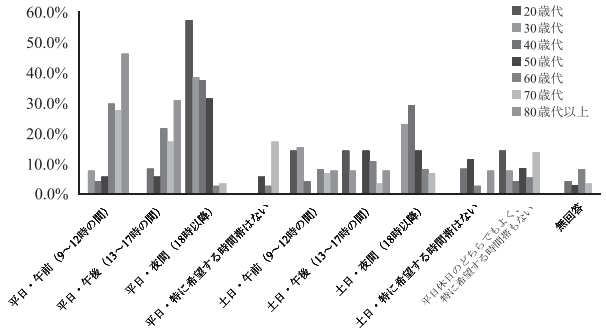

図19　年代別にみた認知症に関する研修の受講希望時間帯（N=158）

3．6 認知症でデイサービスや施設を利用できることを知っていますか。（○は１つ）（図20）

認知症でデイサービスや施設を利用できることは、回答者の61.0％が知っていた。ただし、「いいえ」（30.5％）も3割を占めていることから、一層の情報提供が必要と考えられた。

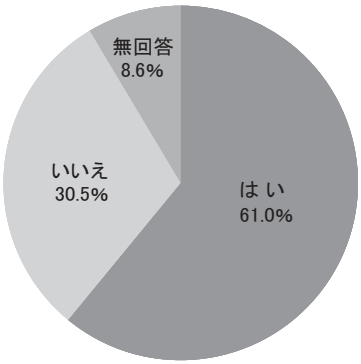

図20　認知症で利用できるデイサービスや施設の認知度（N=397）

4．農林業部会

4．1 あなたの家は農家ですか。（○は１つ）（図21）

回答者の47.4％が農家、49.6％が非農家だった。

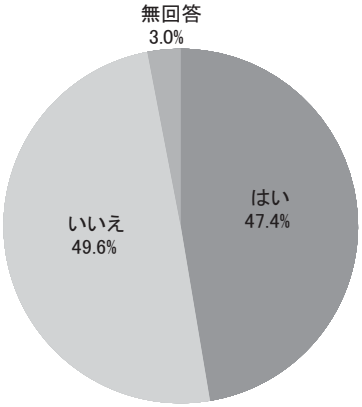

図21　農家か非農家か（N=397）

4．2 あなたの家の耕作面積について教えてください。（○は1つ）（表10）
あなたの家で、主に、農業に従事している方の年齢を教えてください。（○は１つ）（同上）

農家の耕作面積別の内訳をみると、「30アール以下」が42.6％を占めるなど、規模は総じて小さい。主な農業従事者の年齢をみると、「70歳以上」（37.2％）が最も多く、「60歳代」（27.1％）、「50歳代」（20.7％）と続いた。

表10　農家の耕作面積と主な農業従事者の年齢（N=188）

項目	内訳	回答数(人)	構成比
耕作面積	30アール以下	80	42.6%
	31～50アール	60	31.9%
	51アール以上	35	18.6%
	無回答	13	6.9%
年　齢	40歳未満	4	2.1%
	40歳代	14	7.4%
	50歳代	39	20.7%
	60歳代	51	27.1%
	70歳代以上	70	37.2%
	無回答	10	5.3%

4．3 あなたは、農地の今後についてどのように考えていますか。（○は１つ）（図22）

農地の今後に関しては、「現状の規模で耕作し続けたい」（70.2％）が最も多かった。規模縮小を考えている「貸したい」（11.2％）、「売りたい」（4.8％）という回答を寄せたものは全体の16.0％だった。規模拡大を企図している「借り足したい」（1.1％）、「買い足したい」（1.6％）は合わせて2.7％と少数にとどまった。

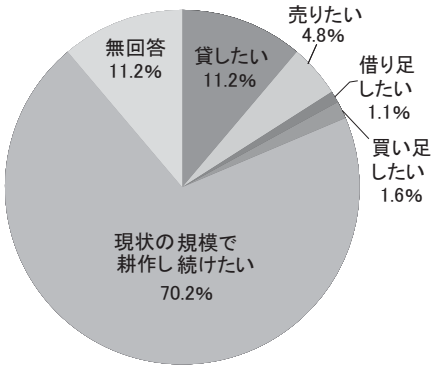

図22　農地の今後について（N=188）

4．4 農地を貸与（売却）するときの、所有機械の扱いを教えてください。（○は１つ）（図23）

農地を貸与あるいは売却したいと答えた30人に、農地貸与（売却）時における所有機械の扱いを聞いた。農地貸与（売却）にあわせて機械も一緒に「売却したい」（40.0％）が最多で、「貸与したい」は16.7％だった。「所有し続けたい」は23.3％だった。農地の全部を貸与（売却）したいのか、それとも一部なのかを質問していないため正確には分からないが、所有継続の希望者のほとんどは、農地の一部の

貸与（売却）希望者ではないかと考えられた。

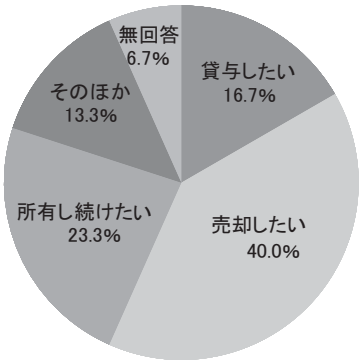

図23　農地貸与（売却）時における所有機械の扱い（N=30）

4．5　賃借（売買）の希望時期を教えてください。（〇は１つ）（図24）

農地の貸借あるいは売買の希望者（35人）にその時期を聞いたところ、「今すぐにでも」が28.6％と最も多かった。「１～２年後」も20.0％を占めるなど、比較的早期に農地流動化を進めたいと考えている農家の存在が明らかとなった。

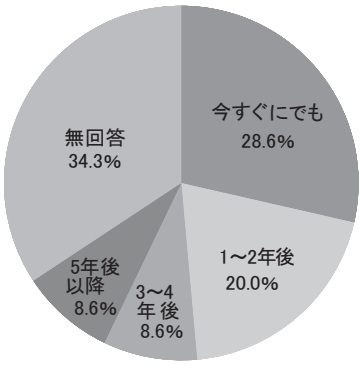

図24　農地貸借（売買）の希望時期（N=35）

4．6　あなたの家で所有している農業機械について教えてください。（あてはまるものすべてに〇）（図25）

農家の所有機械は、「トラクター」が126人と最も多く、「田植機」（114人）、「コンバイン」（92人）、「乾燥機」（59人）と続いた。

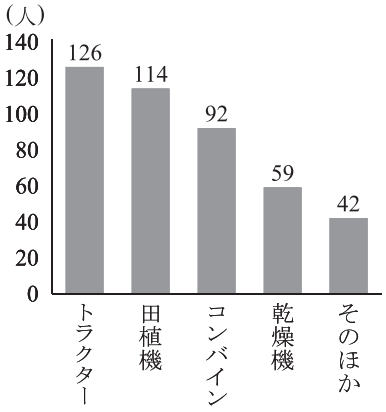

図25　所有している農業機械（複数回答）

4．7　現在所有している機械が壊れたときの、新規購入の意向を教えてください。（〇は１つ）（図26）

所有機械の故障した場合、新規購入を考えているかどうか聞いたところ、「購入を控えたい」が41.0％と最多で、「購入したい」は25.0％だった。回答結果は、現在の厳しい農業情勢では設備投資のハードルは高いこと、規模縮小を考えている農家にとって新規購入の意欲はわきにくいことを示しているものと考えられた。

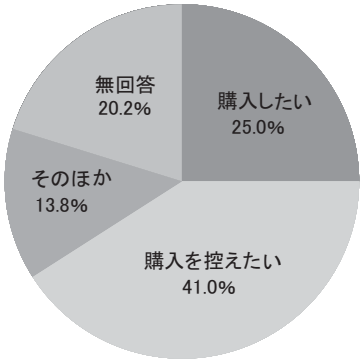

図26　所有機械の故障時における新規購入の意向（N=188）

4．8　もし、町内に農産物の販売施設が設置され、農産物を自由に販売できるような体制が整備された場合、どのように対応しますか。営農方針の意向を教えてください。（あてはまるものすべてに〇）（図27）

農産物を持ち寄って自由に販売できる施設が町内に設置された場合、営農方針をどう考えるかについて聞いた。「現在の生産体制を継続したい」が114

人と圧倒的に多く、「耕作面積を増やしたい」は11人だった。

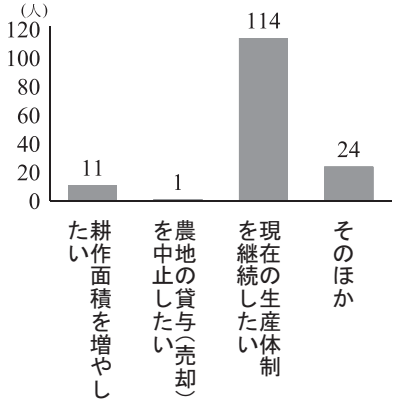

図27　町内に農産物販売施設が建設された際の営農方針（複数回答）

4．9　米の購入先について教えてください。（○は１つ）（図28）

米の購入先は「町内」（35.8％）が最多で、「町外（鳥取県内）」（14.4％）、「県外（鳥取県外）」（5.0％）と続いた。

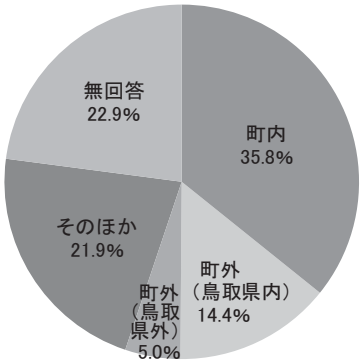

図28　米の購入先（N=397）

4．10　「食」の安心・安全についてどのように考えていますか。（○は１つ）（図29）

「食」の安全・安心に関する意識を聞いたところ、「少々高くても安全なものを買う」を選択した人が47.6％を占めた。「どちらともいえない」は29.7％、「安い方を買う」は10.8％だった。

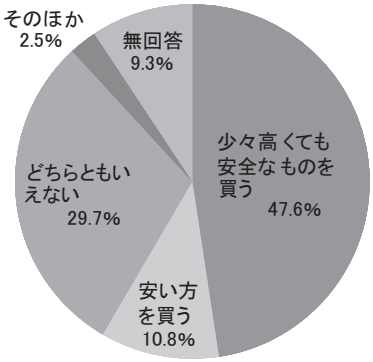

図29　「食」の安心・安全についてどう思うか（N=397）

4．11　農業のあり方、農業に従事するうえでの悩み、新規就農の意向などについて、ご意見やご提案などあれば記入してください。

分析は省略した。詳細は添付の「集計結果」を参照してほしい。

5．教育・文化部会

5．1　図書館利用について

5. 1. 1 智頭図書館に利用者登録していますか（利用者カードを持っていますか）。（○は１つ）（図30）

智頭図書館に利用者「登録している」は23.2％で、「登録していない」（69.5％）を大幅に下回った。「登録していないが利用している」は2.8％だった。

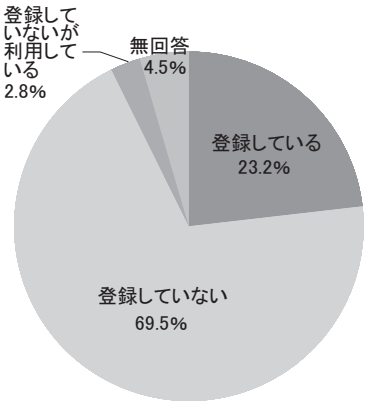

図30　智頭図書館の利用者登録の有無（N=397）

5. 1. 2 利用者登録していない理由を教えてください。（○は１つ）（図31）

図書館の利用者登録をしていない理由として最も

多く挙げられたのが「利用者登録について知らなかった」（36.6％）だった。「図書館や読書に関心がない」も33.4％と比較的多かった。智頭図書館に対する回答者の関心はあまり高くないものと考えられた。

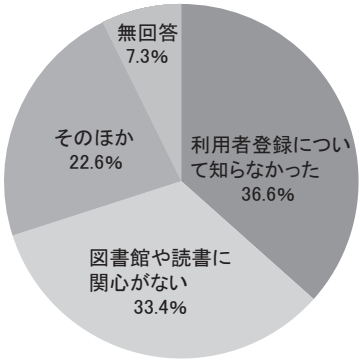

図31　利用者登録をしていない理由（N=287）

5. 1. 3 図書館のサービス水準についてどう思いますか。（○は１つ）（図32）

図書館のサービス水準についてどう思うか聞いたところ、図書館に対する関心があまり高くないという状況を反映して、「どちらともいえない」（47.5％）がおよそ半分を占めた。「満足できる」は14.0％、「不満だ」は7.9％だった。

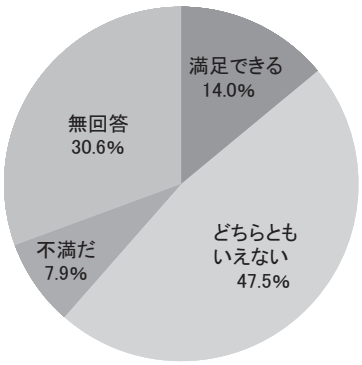

図32　図書館のサービス水準（N=397）

5. 1. 4 不満と感じる理由について教えてください。（○は１つ）（表11）

図書館のサービス水準について「不満」と回答した30人に、不満理由を聞いたところ、「２階にあり利用しにくい」が30.0％と最も多かった。以下、「読みたい本が置いていない」（16.7％）、「閉館時間が早い」（13.3％）と続いた。

表11　図書館の不満理由（N=30）

	回答数(人)	構成比
読みたい本が置いていない	5	16.7%
2階にあり利用しにくい	9	30.0%
館内がせまい	3	10.0%
開館時間が遅い	2	6.7%
閉館時間が早い	4	13.3%
新着図書や図書サービスについて情報提供が不十分である	1	3.3%
無回答	6	20.0%
計	30	100.0%

5. 1. 5 今後の図書館のあり方について、ご意見やご提案などあれば記入してください。

分析は省略した。詳細は添付の「集計結果」を参照してほしい。

5．2 子育てについて

5. 2. 1 お子様の通う学校等について教えてください。複数いる場合は、最も年長者の１人について答えてください。（○は１つ）（図33）

以下の質問は、高校生以下の子どものいる人を対象にした。対象者は90人、子どもが複数いる場合は最年長者に限定して質問に答えてもらった。子供の通う学校では、「高等学校」（32.2％）と最も多く、「小学校」（24.4％）、「中学校」（同）が同率で続いた。「保育園」は7.8％、「幼稚園」は2.2％だった。

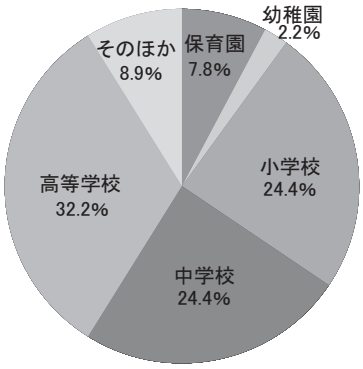

図33　子ども（最年長者）の通う学校（N=90）

5. 2. 2 智頭町は子育てをしやすい「まち」だと思いますか。その理由も教えてください。（○は１つ）（図34）

智頭町は子育てをしやすい「まち」かどうか聞いたところ、「はい」が45.6％を占めた。「いいえ」は「はい」より10ポイントほど低く33.3％だった。理

由については、添付の「分析結果」を参照してほしい。

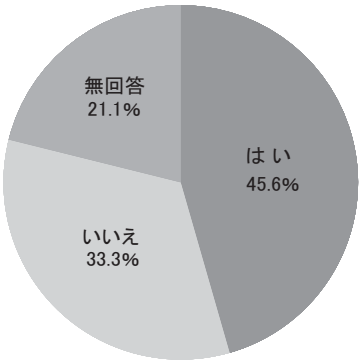

図34　智頭町は子育てをしやすい「まち」かどうか（N=90）

5.2.3 子育てについての悩みや疑問などを、気軽に相談できるところはありますか。（○は１つ）（図35）

子育ての悩みや疑問を相談できる場所が「ある」は45.6%、「なし」は36.7%だった。

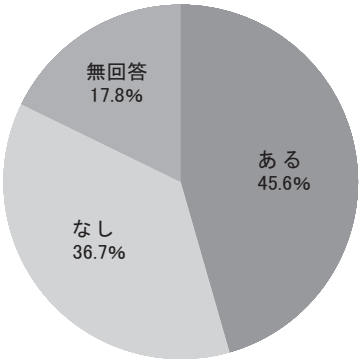

図35　子育てに関する悩みや疑問などの相談場所の有無（N=90）

5.2.4 おもな相談相手（機関）について教えてください。（○は１つ）（図36）

相談相手（機関）としては「親族」が53.7%と最も多かった。「友人」（19.5%）、「学校（保育園を含む）」（9.8%）、「役場など公的機関」（2.4%）と続いた。

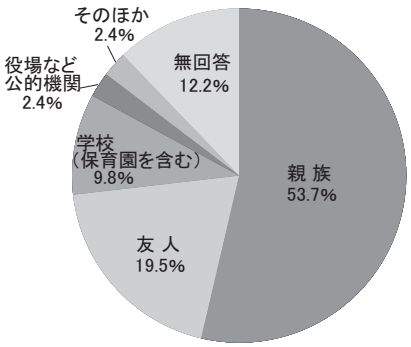

図36　おもな相談相手（機関）（N=41）

5.2.5 町外で子育てをしたいと思いますか。その理由も教えてください。（○は１つ）（図37）

町外で子育てしたいかどうか聞いたところ、「いいえ」が44.4%と最も多かった。町外で子育てしたいと考えている人は21.1%だった。理由については添付の「集計結果」を参照してほしい。

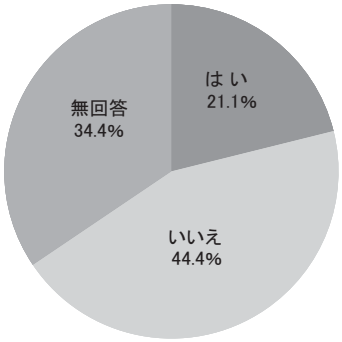

図37　町外での子育ての希望（N=90）

5.2.6 子どもが、家族以外で悩みを相談できるところはありますか。（○は１つ）（図38）

回答者からみて、子どもが相談できる機会があるかどうか聞いたところ、「どちらともいえない」（35.6%）が最多で、「ある」（30.0%）、「なし」（18.9%）と続いた。

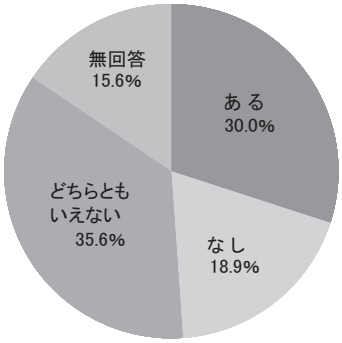

図38　子どもが相談できる家族以外の機会の有無（N=90）

5. 2. 7 子どもの相談相手（機関）について教えてください。（○は１つ）（図39）

子どもの具体的な相談相手（機関）として最も多く挙げられたのは「友人」（48.1％）だった。以下、「親族」（29.6％）、「学校（保育園を含む）」（7.4％）、「役場など公的機関」（3.7％）と続いた。

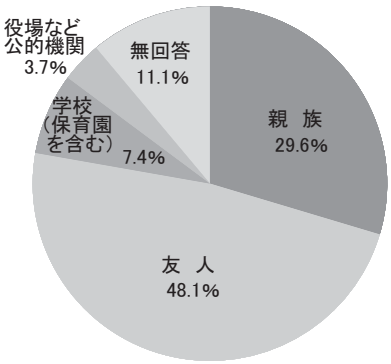

図39　子どもの相談相手（機関）（N=27）

5. 2. 8 子どもの通学時のおもな交通手段を教えてください。（○は１つ）（図40、41）

子どもの通学時のおもな交通手段として最も多かった回答は「汽車」（27.8％）で、「バス」（21.1％）、「自家用車」（20.0％）も20％以上と多かった。「そのほか」（21.1％）には、徒歩や自転車が含まれているものと考えられた。この結果には学校別に差がみられ、全体で最も多かった「汽車」利用については「高等学校」（20人）が中心を占めていた。「バス」の利用は「中学校」（10人）に、「自家用車」は「保育園」（５人）に多くみられた。

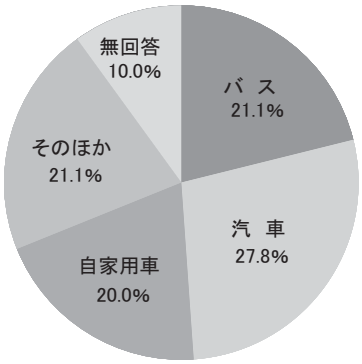

図40　子どもの通学時のおもな交通手段（N=90）

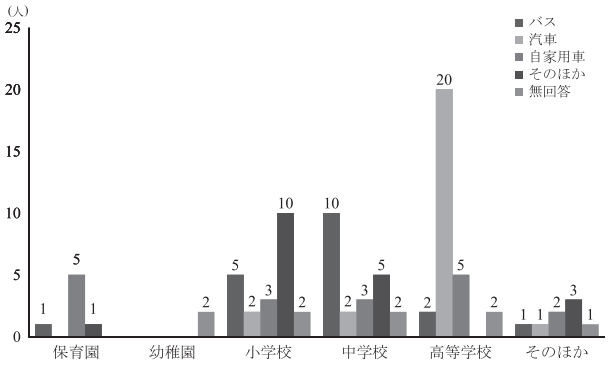

図41　子どもの通学時のおもな交通手段（N=90）

5. 2. 9 智頭町をいま以上に子育てしやすい「まち」にするために、どのような方策が考えられますか。（○は１つ）（図42）

智頭町の子育の環境を向上させるうえで必要な施策として、「子育て支援の充実」（25.6％）、「教育力の向上」（23.3％）、「通学の利便性」（21.1％）がそれぞれ20％以上の回答を集めた。

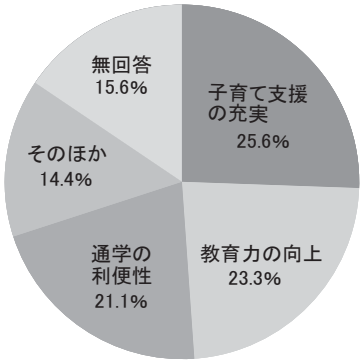

図42　智頭町をより子育てしやすい「まち」にするための方策（N=90）

5. 2. 10 智頭町における子育てのあり方について、ご意見やご提案などあれば記入してください。

分析は省略した。詳細は添付の「集計結果」を参照してほしい。

6．おわりに

本稿では、「住民アンケート」の利用者の利便性を考慮して、おもに単純集計の結果を使用して分析を行った。今後、「住民アンケート」の結果を企画立案や政策提言に結びつけるには、より深い分析が必要だろう。百人委員会のメンバーが、それぞれの

問題意識で、より詳細な分析評価に取り組むことを期待したい。ぜひとも本稿に添付した「集計結果」を活用していただきたい。

まちづくりの成否は正確かつ綿密な現状把握ができるかにかかっている。今後、地域課題を具体的に把握するためには、「住民アンケート」の結果を十分に議論したうえで、関係者に対する聞き取り調査や、社会実験などの実証的な調査研究が必要と考えられる。「住民アンケート」の結果が、百人委員会での議論を経て、企画立案や政策提言に生かされること、さらには自分たちの町をどのように変えていくのかというグランドデザインの策定につながっていくことを期待したい。

本稿が、智頭町における住民自治の進展の一助となれば望外の喜びである。

集計結果

（本文・2. 1. 6）　生活環境全般について、ご意見やご提案などあれば記入してください。

年　齢	性別	コ　メ　ン　ト
20歳代	女性	今年の初めに智頭町へ引っ越ししてきて驚いたのが、可燃ゴミの回収が週３回もあること。これを週２回にするだけでも、経費の面も削減できるだろうし、週３回だといつでもゴミが出せるという感覚になり、気分的にもゴミの減量に反している気がする。一般家庭（２世帯住宅レベル）でも、可燃ゴミ収集は週2回で十分足りる
20歳代	女性	町内にトレーや紙バルブを回収してくれるところがない。設置してほしい
20歳代	男性	生ゴミを回収して自然肥料施設等を町民で活かす施設をつくる
30歳代	男性	コスト意識向上のため、ゴミ処理費用の1人当たりの単価を提示してほしい
30歳代	女性	個人の意識の問題。１人暮らしのお年寄りをどれだけ理解できるかが大切である
30歳代	男性	焚き火を禁止してほしい
30歳代	男性	資源回収の回数を増やし、回収によるポイント制度
30歳代	女性	プラスチックゴミの小もほしい（大きすぎて、満杯にしようと思うと置き場に困るため）
30歳代	女性	智頭町にリサイクルショップがあればいいと思う
30歳代	女性	各地にリサイクルボックス（ペットボトル、トレー等）があると利用しやすい
30歳代	男性	企業が環境に対して取り組めるように、国、自治体がバックアップすること
40歳代	女性	生ゴミ処理の話は知りませんでした。智頭町民全員に知ってもらうべきではないでしょうか？
40歳代	女性	ゴミを家庭で燃やしてる人が多いと思う
50歳代	男性	他地区の方が車で来て捨てていくので防災無線、町報などで再周知を願う
50歳代	男性	大型ゴミ、小型ゴミの回収回数が少ない
50歳代	女性	いまだに汚水などがでるとゴミを捨てる人がいる。川の中に降りて集めてゴミステーションにだす。川の中の土をみてみると小さいナイロンなどがある。ゴミを川へ流さないようになればと思います
50歳代	男性	ゴミを集めて量や種類をデータ化して、町民に公表し意識づける
60歳代	女性	消費拡大の町の対策はとても助かった。食べきる、使い切るという方法でゴミはかなり減らすことができる。命をいただくことへの感謝を示すことを子供に教えていけると思う
60歳代	男性	まず、ゴミの減量やリサイクルについての現状をこまめに住人に説明する事が大切である
60歳代	女性	回収された生ゴミの有機肥料を販売してほしい
70歳代	女性	修理したくても部品がなく修理代が高いです
70歳代	男性	河川のゴミ、道路上のゴミ、煙草の吸い殻、投棄等町民の環境美化を啓蒙すべきだ
70歳代	男性	町内会のゴミ収集場所の適正な設置、管理
80歳代以上	女性	ゴミになりやすい、商品の包装が多すぎる
80歳代以上	女性	若い人と相談しながらしている

（本文・2. 2. 3. 4）　すぎっ子バスや汽車の利用を増やすために、ご意見やご提案などあれば記入してください。

年　齢	性別	コ　メ　ン　ト
20歳代	男性	通勤での利用促進ができればいいのではないか
20歳代	女性	利用状況などによると思うが、杉っ子バスはせめて１時間に１本の運行はできないだろうか？富沢線を利用しようと考えたことがあるが、17時台や９時半～11時台に便がなかったため、不便さを感じる
20歳代	女性	バスはもう少し小さくてよい
20歳代	女性	町職員などノーマイカーデーをつくる。土曜日曜日も運行する
30歳代	男性	料金の値下げ。100円バスのように、100円汽車の時間をつくる（午後２～４時とか）
30歳代	男性	汽車の終電時間をもっと遅くほしい。鳥取市内のような小さいバスがあってもよい
30歳代	男性	汽車は普通便の時短、路線による停車時間の短縮。運休、遅れなどの迅速な情報がほしい
30歳代	男性	土曜日便数の増加、日曜日の運行をしてほしい
30歳代	男性	根本的に駅の再配置。東部地区全体で考える必要があると思う。鳥取市内のバスの路線などの見直しを先にしなければ社会人は利用するメリットはない
30歳代	女性	すぎっ子バスの休日運休はおかしい
30歳代	女性	すぎっ子バスが走らない地域があるので、他と同じように走るようにしてほしい
30歳代	女性	土曜日便数の増加、日曜日の運行をしてほしい。駅前に駐車場があればいいのに…
30歳代	女性	とにかく便数が少なく活用したくても活用しにくい
30歳代	女性	本数を多く。20分に1本はほしい。数があれば使える
30歳代	女性	各バス停の時間を細かく知りたい
30歳代	女性	バスを小型化する。時間帯によって本数を増やす。イベントに使用する。難しいかもしれないが、地域の企業や役場などの職員はノーマイカーデーを月に数回実施する
30歳代	女性	すぎっ子バスは病院から便を出すほうがよいのではないか？
30歳代	女性	すぎっ子バス：高速バスの発着時間にもっと通ってほしい。汽車：鳥取からの最終時間を遅くしてほしい
40歳代	男性	近距離の利用者を増やすため、町内回りは半額にしてはどうだろうか？
40歳代	女性	お年寄りが多いので使いやすく。デマンドバスの土日利用など
40歳代	女性	土曜日曜も運行してほしい
40歳代	女性	汽車の便数を増やしてほしい
40歳代	女性	土曜日曜の運休はおかしい
40歳代	女性	観光客の方（特に汽車で来られた人）に不便なので、土曜、日曜、祝祭日は観光地（足津、那岐、板井原等）を巡るバスがあったらいいと思う（１日パス、２日パスをつくる）
50歳代	男性	駅前に駐車場がほしい
50歳代	男性	便数を増やす
50歳代	男性	高速バスを利用する際に福原まで行かないと乗車できないのでバス到着にあわせて、すぎっ子バスを運転してほしい
50歳代	男性	ドライバーの質向上を
50歳代	女性	小型バスで運行回数を増やしてほしい
50歳代	女性	駅前に駐車場がなく不便
50歳代	女性	現在運行しているバスは大きすぎる。小さいバスで運行回数を増やせるのではないか？
50歳代	女性	バスの回数券を智頭病院内（福祉課）等で売ってみてはどうでしょうか？　病院通いの年配の方が便利なのではないでしょうか？
50歳代	女性	汽車を子供が利用しているが、土師までの通勤帰宅が不便である
50歳代	女性	福原のバス停は利用者にとって不便である
50歳代	女性	高速バスとすぎっ子バスとの連絡を密にしてほしい。智頭福原は不便で仕方がないし、夜は物騒で怖い
60歳代	女性	バスや汽車を増やしても昼間などは利用者が少なく採算がとれないと思う
60歳代	女性	中学生（学校、部活の終わる時間）に間に合わないため、どうしても送り迎えの率が高くなる
60歳代	女性	バスの始発場所が離れていて、重い荷物をもって歩くのが大変です
60歳代	女性	町長さんはじめ、町、町職員の方が率先して利用されると色々なふれあいがあって、目にみえない利点があると思います
60歳代	女性	高速の大阪行きとすぎっ子バスが連絡がとれていない。役場に申し出たが直されない。福原のバス停は不要に等しい
60歳代	女性	運転できないのでなくなっては困る

年　齢	性別	コ　メ　ン　ト
60歳代	女性	汽車の増便を望む
60歳代	女性	小型のマイクロバスで運行回数を増やしたほうが、便利で利用しやすいのではないか
70歳代	男性	日曜日の運休は理解に苦しむ。高速バスの利用時、智頭福原のバス停は非常に不便である。憤りを感じる
70歳代	男性	汽車、バスの連絡
70歳代	男性	高速バス利用時に不便である
70歳代	男性	回数を増やせば町の赤字が大きくなるのでもう少し検討してほしい
70歳代	男性	中学生が利用しやすいダイヤにする
70歳代	女性	土曜日曜も運行してほしい
70歳代	女性	バスが大きすぎるのではないか？　私の地区では10人以上乗っているのをみたことがない
70歳代	女性	バスは１時間に１本増やしてほしい
70歳代	女性	病院から10時頃に帰るバスがあればいいと思う
70歳代	女性	時々、本線だけではなく支線にも入ってほしい
80歳代以上	男性	もう少し小型のバスで良いと思う
80歳代以上	男性	日曜日などの運行回数の検討が必要
80歳代以上	女性	すぎっ子バスは利用者にはありがたいが、乗車人数が少ない。町の予算も大変であると思うがなんとかしてほしい
80歳代以上	女性	運転手が親切でよい。土曜日曜の運行を望む
80歳代以上	女性	ほのぼのでバスの回数券を販売してほしい
80歳代以上	女性	マナーが悪い
80歳代以上	女性	大きなバスで乗車人数が少なくもったいない気がする

（本文・3. 3）　認知症にかかわって、生活上、困ったことはありますか。「ある」場合はその理由を記入してください。

年　齢	性別	コ　メ　ン　ト
30歳代	男性	徘徊
30歳代	男性	家族が分からない。食事時間が分からない
30歳代	女性	何回も同じことを繰り返す
30歳代	女性	家庭介護の支援がない
40歳代	男性	５分もたたない間に何回も同じことを言ったり聞いたりする
40歳代	男性	誰かが24時間みないといけない
40歳代	女性	本人と家族それぞれが負担になる
40歳代	女性	暴力的、短気になる
50歳代	男性	コミュニケーションがとれない
50歳代	男性	経済的負担が長期間入院すれば増加する
50歳代	男性	物忘れ
50歳代	男性	徘徊
50歳代	男性	怒るのに困る
50歳代	男性	何回も同じことを繰り返す
50歳代	男性	徘徊
50歳代	女性	祖母の介護で失業しても生活費はいるので、祖母の年金だけでは本当に生活していけない。時間があると少しでも働きたいのに町内では仕事もなく、もう毎日泣きたいです
60歳代	男性	介護に大半の時間を要する
60歳代	男性	私用の時間がとれないし、常に目線を離せない
60歳代	女性	急にいなくなる
60歳代	女性	何回も同じことを繰り返す
60歳代	女性	家族、親類全員に負担がかかる
60歳代	女性	徘徊
70歳代	男性	昼夜を問わず徘徊。食事の時間の感覚がなくなる
70歳代	女性	食べることばかり
70歳代	女性	同じことをいつも言う
70歳代	女性	いつでも目を離せない

（本文・4. 11）　農業のあり方、農業に従事するうえでの悩み、新規就農の意向などについて、ご意見やご提案などあれば記入してください。

年　齢	性別	コ　メ　ン　ト
20歳代	男性	農業のしやすい環境づくり
20歳代	男性	農業をやったことがないので分からない
20歳代	男性	兼業で農業を行っていると、時間、生活にゆとりがもてない
20歳代	男性	農業で生活できるようにしてほしい
20歳代	女性	農産物の販売施設があればいいと思う
20歳代	女性	農業についてよく分かっていないが、（現状など）悩み相談会などを行ってほしい
30歳代	男性	休耕田をもっと利用してはどうか？
30歳代	男性	集落営農や農機具共同利用の促進を行ってほしい
30歳代	男性	農業はえらいのでやめたい
30歳代	男性	利益が出る仕組みをつくり、利益が出ることをPRする。義務教育で農業を教えないから就農しようとしないのではないか
30歳代	女性	できる限りやりたいが、家庭や仕事の両立がどこまでできるか不安
30歳代	女性	地域でつくったものを購入できるといいと思う
30歳代	女性	智頭の特産をつくるべき
30歳代	女性	できたものを食べるので分からない。おじいちゃん、おばちゃんがつくっています
30歳代	女性	精算が合わない。現在は管理している人がいるためいいが、これから先管理も大変
30歳代	女性	お金のかからない農業（農機具の貸し出しなど）
30歳代	女性	農業でもっと利益が上がるようになればよい
40歳代	男性	農業を楽しみたい
40歳代	男性	赤字になる農業をしない。生活基盤が農業以外からの収入なので、農業収入以外から農業機械購入費にまわしてまで農業をしたくない
40歳代	男性	智頭町は情報が非常に遅い
40歳代	男性	休耕田の利用とか、農業に従事してない人でも手軽に取り組める環境の整備（行政的にも）
40歳代	男性	農業は生き物相手なので、自由に休めないことが大変だと思う。自由に休みがとれ、給料が高ければ若い人でもたくさん希望者が増えるのではないだろうか？
40歳代	女性	就職先がないこの時代だからこそ、若い方でも興味をもつ政策が必要である
40歳代	女性	小規模農家では経費のほうが多くかかる。全くやる気がでない
40歳代	女性	田んぼはできても畑で作物をつくることはできない
40歳代	女性	農業が大切なのは分かるが、実際には労力が半端ない。畑を維持するために必要以上に野菜をつくり余らせている実情はもったいないと思う
40歳代	女性	休耕田を自由に使いたい人（町外でも）に貸し出してほしい（例えば、ハーブ園や薬草円とか山野草など）
40歳代	女性	高齢化により農業を続けていくのが不安
50歳代	男性	肥料等の値段の高騰が辛い。スーパーなどの販売形態、流通システムが変わらなければ農業で食べていくのは無理でしょう
50歳代	男性	農産物販売等の加工、生産等、リーマンショック以降仕事が激減しています。町が主体となり雇用を農業の分野でも創出してほしい
50歳代	男性	行政が農林業にもっと関与していく必要がある。町の資源である杉、水の補助金
50歳代	男性	小規模農家に対して農業用機械が高すぎる
50歳代	男性	農業で生計が立てられない
50歳代	男性	地産地消を基本とすべきだと思う。特に野菜については積極的にその体制、組織を町独自の姿勢で整えるべきである
50歳代	男性	道の駅のように安い野菜を1ヵ所で売ってほしい
50歳代	男性	現在の農業経営では、生活できない。兼業農家でも主の収入、生活水準、農業収入が年々下がるという状況で農業など維持できない
50歳代	男性	販売先がないため、つくりたくてもつくれない
50歳代	男性	採算がとれない。販売ルートが分からない。
50歳代	男性	古い時代の分配方法の誤りで偏りすぎて、農業をしたい人には土地がない
50歳代	男性	営農としての耕作面積が少なすぎる。機械化、集田農法により、高齢者による維持をおこなう
50歳代	女性	機械化された農業。昔より人の手がいらず、少数でできるという世の中。よくなったと思う
50歳代	女性	農業による収入を増やしてほしい

年　齢	性別	コ　メ　ン　ト
50歳代	女性	家庭で食べるくらいはつくりたいが、仕事をしていたり、介護をしていたり、なかなか大変
50歳代	女性	コンバイン、乾燥機など秋の機械がないので他の人にやってもらっている。ライスセンターでは全部一緒になってしまうので、他に利用できる機関がほしい
50歳代	女性	兼業農家なので大変さを感じる。費用(機械類)の負担も重くのしかかる
50歳代	女性	米は農協に出すと安いしライスセンターの使用料を引かれ農薬代等を引くと手元には残らないのでやめたいが、田んぼがある限りやめられない
50歳代	女性	農業は国レベルでもっと大切にされなければならないと思う
50歳代	女性	野菜などはなるべく町内の方の名前が載っているものを買うようにしている。もう少し道の駅のような地元の野菜、果物などが買える場所がほしい
50歳代	女性	地元の新鮮で安心して食べられる食材を希望する
60歳代	男性	智頭の特産をつくるべき
60歳代	男性	農産物販売施設をつくり、小規模の農家でも出品できるようにすること
60歳代	男性	農業は高齢者には厳しい作業と思う
60歳代	男性	後継者がいない
60歳代	男性	有機減農業でつくっているが、牛ふん等が簡単に買えるようになればいい
60歳代	男性	時間はあまりない。住民の意見、考えを聞く機会をもっとつくってできるだけ多くの人で考える
60歳代	男性	農業だけで生活できれば面積を増やしてでもやってみたい
60歳代	男性	町の特産品をつくってほしい
60歳代	男性	遊農地を100%農地化して就農者を増加させることが大切
60歳代	女性	高齢化が進み自分達だけではいつまでやっていけるか不安（私の地域の農業従事者は60～70歳代が多い）
60歳代	女性	稲作ではJAに買い取ってもらう方法。機械が壊れても新品はとても買えない。なるべく自家でつくったものを安心して食べたい

（本文・5. 1. 5）　今後の図書館のあり方について、ご意見やご提案などあれば記入してください。

年　齢	性別	コ　メ　ン　ト
20歳代	男性	本の数を増やしてほしい
20歳代	女性	図書館の場所が悪い。バス、汽車の待ち時間に寄れるような場所がよい
20歳代	女性	サービスや図書館そのもの（蔵書や施設の規模など）の質をあげるために職員の育成はもちろん、利用者が図書館がどういうものなのか知る必要がある。利用者＝町民の声があれば行政も動いてくれるはずだ。図書館は本を借りるだけの場ではなく、生涯学習の場であるべきだ
30歳代	男性	管理費がかかるならなくしてほしい。小中高の図書館を利用する
30歳代	男性	利用方法をもっとわかりやすく。古本の販売、引き取り等を定期的に実施してはどうか？
30歳代	男性	図書館で学生が試験勉強等するのはおかしい
30歳代	男性	駐車場があり、１階に広い図書館があればいいと思う
30歳代	男性	絶対に必要な施設です
30歳代	女性	古くなったビデオは見えないときがある。DVDやビデオといったものも、もう少し種類を増やしてほしい
30歳代	女性	移動図書館があるとよい
30歳代	女性	老人の方や妊婦さんは2階は利用しにくいと思う。図書館内でゆっくり本を読んだり、勉強したりする場所が狭いと思う
30歳代	女性	貸出期間をもう少し長くしてほしい。携帯小説をもっと増やしてほしい
30歳代	女性	子供が大きくなれば、いろんな本を読むために利用したい
30歳代	女性	けがをしたり、足が不自由だと行きたくても行けない
30歳代	女性	複数の図書館が同じ本を持つ必要はないので、気軽に県立の本が貸し借りできるようなシステムづくりを…
30歳代	女性	雑誌の数を増やしてほしい。週に何回か夜遅くまで開館してほしい
40歳代	男性	今の利用者だと現在のレベルは仕方ないが、充実させ利用を増やし、町民の教育レベルを上げるのが望ましい
40歳代	男性	新刊を多く入れてほしい
40歳代	女性	本の数、スペースを増やしてほしい
40歳代	女性	蔵書が少ないけれど利用者も少ないので意外と本が借りやすいが、図書館は非常に狭いと思う
40歳代	女性	問（4）の不満と感じる点はすべて当てはまる

年　齢	性別	コ　メ　ン　ト
40歳代	女性	１階の本だけでも１階で受け付けができればよい。読みたい本を電話で予約できればよい（足の悪い母が階段を上がれず残念がっていたので、何とか良い方法ができますように）
50歳代	男性	もっと本を増やすべきである
50歳代	女性	私も最近本を読むようになったのですが、何かきっかけが必要だと思う。テレビや映画の原作になっているとか、人気ナンバー1の本とか…。そういう興味をそそるような宣伝の仕方が必要だと思う
50歳代	女性	車いすなので2階に上がりにくい
60歳代	男性	１Ｆに移設してほしい
60歳代	女性	開館時間が短い。２階にあり利用しにくい
60歳代	女性	インターネットが利用できたらいいと思う
60歳代	女性	2階になったので行きにくい
60歳代	女性	本の数を増やしてほしい
70歳代	男性	もっと本の数を増やしてほしい
80歳代以上	女性	書庫を増やし、寄付等を積極的に利用し必要な本を確保

（本文・5. 2. 2）　智頭町は子育てをしやすい「まち」だと思いますか。その理由も教えてください。

子育てをしやすい「まち」だと思う理由

年　齢	性別	コ　メ　ン　ト
20歳代	男性	病院に小児科があり、病後児保育等があるから。ただし保険料が高い
30歳代	男性	地域ぐるみで子育てができているように思う
30歳代	男性	近所の方が協力してくれる。のどかである
30歳代	男性	親と同居なので安心して共働きが可能
30歳代	女性	自然とふれあいながら、体力づくりにも力を入れているし子供が元気にのびのび過ごしている
30歳代	女性	子育て支援センターがある。小児科がある。でも耳鼻科も毎日診察してほしい
30歳代	女性	病後児保育、児童クラブ、ファミリーサポート等、市内に比べ安い料金で利用できる。祖父母がいるので利用することがほとんどないが、核家族の方々は助かるのではないか
30歳代	女性	妊婦検診については満足している
40歳代	男性	自然が多く、ゆったりと教育できる
40歳代	男性	ここでしか生活していないので他の町と比べられないがそんなに悪いと思わない
40歳代	男性	中学生を考えれば、人数的には何とか集団として成立しているので、田舎の学校で子供を育てるのはいいと思うが、高校生になることを考えると少々不安もある
40歳代	男性	人口が少ないので町民の目が届きやすい
40歳代	男性	子育てしやすいが、子供の数が少なくて可哀想である（地域と人とのつながりが深いので子育てしやすい）
40歳代	男性	田舎なので
40歳代	女性	保育園、小学校など自然がたくさんあり、屋外で色々な体験ができると思う
50歳代	男性	静かで空気がきれい
50歳代	男性	自然環境での子育てに満足しているが、子供達が少なく、外で遊ぶことが少ないのが難である
50歳代	女性	のんびりと子育てできる
60歳代	男性	もっと子供を見守る心配がある。いじめもあるようです…
60歳代	女性	経費の事を考えないのであれば、小学校は統合せず、少人数のまま各地域で子供が育つ…そういう環境がよい。統合はもったいないし怖いと思う
60歳代	女性	部落内でたまたま留守にした場合、保育園の子が泣いていて家に連れて帰りおやつを与えて面倒をみてもらい感謝したことがあります
70歳代	女性	田舎だからお金がかからない
80歳代以上	男性	子供が病気になった時も病児保育があってよい

子育てをしにくい「まち」だと思う理由

年　齢	性別	コ　メ　ン　ト
20歳代	女性	支援センターは山形地区にあり、遠いイメージ。わざわざ行ってみようと思わない。そのほか、児童館なども開放感がまったくなく行きたいと思わない。子供をもつ親が交流をもてる場、機会をしっかりつくり、その日時、内容をもっとしっかり告知するなどした方がいいと思う
20歳代	女性	いじめ、学力低下の原因は統合しないから。早急に…

年　齢	性別	コ　メ　ン　ト
20歳代	女性	もっと子育てグッズが買えるお店がほしい
30歳代	男性	保育料が高い。先生の質が悪い
30歳代	男性	保育料が高い。子供が遊ぶスペースがない
30歳代	女性	皮膚科、耳鼻科等の設備が不足している。小児科はいいが、皮膚科、耳鼻科等がないのは非常に辛い
40歳代	男性	交通の便が悪いため
40歳代	男性	他の地区を知らないから分からない
40歳代	男性	交通の利便が悪い
40歳代	男性	通学の面での不便さ、送迎等に不満
40歳代	女性	通学するときに交通の便が悪い
40歳代	女性	何事も選択肢が限られる。子供の数が少なく、子供同士のふれあいも少なく可哀想である
40歳代	女性	子供が少ない、公園が少ない、小学校の統合を早くすべきだ。汽車のダイヤが不便。せめて１時間に１本ほしい。（特に夜）19時台の本数がもっとあればたすかる
40歳代	女性	交通面で不便である
40歳代	女性	必要な物がすぐ買えるところにないので、鳥取まで出かけることがあり不便
40歳代	女性	便数も時間も不便である
40歳代	女性	交通が不便
50歳代	男性	授業と交通機関の折り合いが悪いので７㎞も歩いて帰ってくることがある。学校も含め何とかしてほしい
50歳代	男性	地域が疲弊するといって、小学校が統合できないのは住民のエゴであり、とても子育てをしやすい町だとはいえない
70歳代	男性	物価が高い
70歳代	女性	子供の数が少なすぎて困る…

（本文・5.2.5）　町外で子育てをしたいと思いますか。その理由も教えてください。

町外で子育てをしたい理由

年　齢	性別	コ　メ　ン　ト
20歳代	女性	県外から引っ越してきたので、どうしてもそちらと比べてしまう。智頭町の子育て支援がどのようなものなのか、まだ知りきれていないからかも知れないが、もっとPRするなどできないものか？支援センターも智頭町病院内のほのぼのなどが町の中心部にあればもっと活用しやすいように思う
20歳代	女性	子育てを智頭でするのは無理である。子供がかわいそう。勉強も、スポーツも、何一つとして芽がのびない。のびのびと町外で育てたいと思う
30歳代	男性	色々な面で便利
30歳代	女性	スーパーや病院等、交通機関、教育面でも町外の方が便利で生活もしやすいと思う。町内は自然は豊かだが、やはりどこかで閉鎖的なところがあると思う
40歳代	男性	たくさんの学生がいて、様々な方々と交流できる
40歳代	男性	交通の便がよいため
40歳代	男性	選択肢が多いため
40歳代	女性	中学まではまだよいが、高校になると通学にかかる費用、労力が大変
40歳代	女性	交通時間もお金も節約できる。子供の将来の選択肢も広がるように思う
40歳代	女性	時間もガソリンも代も節約できるので
50歳代	女性	医療レベルが低い

町外で子育てをしたくない理由

年　齢	性別	コ　メ　ン　ト
20歳代	女性	自然があってよい
30歳代	男性	交通費と時間の問題があるのでとりあえず仕方なく町内
30歳代	男性	通園が大変だから…
30歳代	男性	田舎だから安全という訳ではないが、遅くまで開いてる店が数軒で安心。子供が小さいうちは智頭町にいたいと思う
30歳代	女性	保育士さんの熱心な指導に満足しているから
30歳代	女性	どこも一緒。その土地にあった養育費であればよい
30歳代	女性	外でのびのび遊べるし、近所の人にかわいがってもらえる

年　齢	性別	コ　メ　ン　ト
40歳代	女性	小さい時は町内で育ち、大人になっていって町外の生活をすれば良いと思う
40歳代	女性	智頭に住んでいる（働いている）ので町外は無理である
40歳代	女性	地域になじみがあるから
50歳代	女性	自分が育った町なので他は考えられない
60歳代	女性	自分が生まれ育ったから
70歳代	女性	生まれたところで育ててほしい
70歳代	女性	お金がかかるから

（本文・5. 2. 10）智頭町における子育てのあり方について、ご意見やご提案などあれば記入してください。

年　齢	性別	コ　メ　ン　ト
20歳代	女性	保育園、中学校は町に１つ。小学校は6つ。合併するとかしないとか…。何年も前から議題となり検討されているらしいが、どうなっているのか。保育園で仲良く3年間過ごした友達と小学校で離ればなれになり、1学年に友達がわずか数人…となると、子供の意見を聞いてみてはどうか？　中途半端な気がしてならない。もっとしっかりしてほしい
30歳代	男性	エチカの鏡のような子育てをしてほしい。子供が心身ともに大きく育つ教育力のある先生に育ててもらいたい。今のままでは最悪である。この意見が百人委員会で話し合われない場合は百人委員会は最悪である
30歳代	男性	保育料は所得関係なしで、一律にしてほしい。保育園で保育料が違うのはおかしい。過不足は町が負担してもよいのでは？
30歳代	男性	子育て支援をしてほしい
30歳代	女性	小学校を早く統合してほしい
30歳代	女性	子供にとって自然の中がどれだけいいかということをもっとみんなに理解してほしい
30歳代	女性	教育委員会の職員さんにもう少し、今の子供や保護者の状況を勉強してほしい。いくら子育て支援の充実、教育力の向上と周りを固めても、結局は親のあり方だと思う。その部分を考えて対応していかない限り、何の解決もしていかないと思う
30歳代	女性	貴重な大自然があるのでそれを生かした子育て支援をしてほしい。参加型のイベント、研修会や親子会、地区会等がもっと活発にあってほしい。母（父）子会などがあればいいかも…
30歳代	女性	森の幼稚園は何をしようとしているのか？　不透明である
30歳代	女性	「まるたんぼう」のような園はいいと思う
30歳代	女性	小学校、中学校が統合されればいいと思う。町内に安心して働ける場所がほしい
40歳代	男性	中途半端な少人数学校がたくさんあり、良い環境とは思えない。建物を３、４年と待っていたら、子供達は置き去りにされたようなもの。耐震も重要とは思うが、子供達の現状はもっと急を要していると感じる。１、２年のうちに対処してほしい
40歳代	男性	小学校の統合。町外からの生徒受け入れ
40歳代	男性	小学校統合なしでは今後の教育向上はない
40歳代	女性	子供が遊べる公園がもっとたくさんあればいいと思う
40歳代	女性	悪いことを悪いと言える、教えられる親になってほしい。親が甘く子育てができていないと思う
40歳代	女性	汽車の利便が悪く、高校生になっても、送り迎えが親の負担になる
40歳代	女性	小学校で競争もなく、中学校に入ってから苦労しています。智頭が子育てのしやすい町になれば、鳥取に出ている人も帰ってくると思います。小学生をもっと増やして統合しなくてもよいように考えてほしい
50歳代	女性	公共の場でのマナーが悪い
60歳代	女性	子育てのありかたについて考える前に「大人はどうなのか？」と子供たちが思っていることを忘れないでほしい。自分だけが良ければ…と思っている以上、社会環境は変わらないと思う
70歳代	女性	学校の中に希望者だけの学習塾があればいいと思う
80歳代以上	男性	入園希望者が全部受け入れられる施設と体制をお願いします